令和６年度「志教育」実践事例

様式３

宮城県名取高等学校（全日制）

志教育の視点	☑かかわる　・　□もとめる　・　☑はたす

活動名	岩沼西地区小中高校合同あいさつ運動
教科・領域等	
活動学年等	岩沼西小児童・岩沼西中生徒会・名取高校岩沼西中出身１年
ねらい	本校の教育方針「望ましい生活習慣の確立を図り、正しい倫理観、規範意識と自他を尊重する態度を育成する」「家庭・地域・学校が協働して子どもを育てていく環境をつくる」を具現した活動

【実践内容】

岩沼西地区小中高連携事業（平成２８年度より継続）

「岩沼西地区小中高校合同あいさつ運動」

＜岩沼西小児童・岩沼西中生徒会・名取高校岩沼西中出身１年と部活動有志＞

〈視　点〉

◇岩沼西地区の児童生徒や地域の方々とのかかわりを通じて、自己理解や他者理解を深化させる

◇集団の中でよりよい人間関係を築く力や社会性を養う

◇社会において役割を果たす人間として、自らの在り方生き方について主体的に探求させる

◇集団の中で、自己の果たすべき役割を認識させ、その役割を果たすことによって、自己有用感を高める

※本校の教育方針「望ましい生活習慣の確立を図り、正しい倫理観、規範意識と自他を尊重する態度を育成する」「家庭・地域・学校が協働して子どもを育てていく環境をつくる」を具現した活動

〈取り組みの概要〉

岩沼西小学校で各月第１週に実施していた「あいさつ運動」に、岩沼西中学校生徒会と名取高校生徒（岩沼西中学校出身）も加わり、協同して行う活動。同地区の児童と生徒が共に活動することによって、それぞれの学校や地域とかかわる機会をつくる。

〈成　果〉

○小学生や中学生とのかかわりによって、自らの成長の過程を振り返ることができるとともに、現在の自分の在り方や生き方を考える機会となった。

○それぞれの学校の交流だけでなく、岩沼西地区の地域の方々とのかかわりも生まれ、地域と学校の連携を図ることができた。

〈昨年度との比較〉

○毎年恒例となってきたこの取組は年々地域に定着し、各校種から参加する職員数が増加した。近隣住民との連携も図ることができ、さらなる活動の広がりを感じた。また、特色ある活動ということで、今年度は報道機関にも取り上げられた。

○岩沼西地区の児童生徒の協働活動により、自身が生まれ育った地域の環境をより良くしようとする姿勢が世代を超えて育まれるとともに主体性が高まった。

〈メッセージ〉

○今年度は３回のあいさつ運動を実施した。小学生の純粋さや中学生の勤勉さに触れ、今後の学習や諸活動への取り組み方を考えるよい機会になった。近隣住民の方々との連携を図ることができ、日頃から地域の安全を見守っている方々がいることを知り、地域に密着した学校の生徒である意識が高まるとともに、同地区で生活する小中学生と協働することで、共に成長していく環境の大切さに気づくなど意識の変容を感じた。来年度も活動の継続と、自己理解と他者理解を深化させ、岩沼西地区の伝統的な地域貢献活動にしていきたい。

様式３

宮城県名取高等学校（全日制）

志教育の視点	☑かかわる　・　☑もとめる　・　☑はたす

活動名	岩沼西小学校をきれいにし隊
教科・領域等	総合的な探究
活動学年等	岩沼西小学校１・２学年・名取高校家政科１年
ねらい	本校の教育方針「望ましい職業観・勤労観を醸成し、主体的に自己の生き方を考え、行動する態度を育成する」「家庭・地域・学校が協働して子どもを育てていく環境をつくる」を具現した活動

【実践内容】

〈活動名〉

岩沼西地区小高連携事業（平成２８年度より継続）

「岩沼西小学校をきれいにし隊」

＜　岩沼西小学校１・２学年・名取高校家政科１年　＞

〈視　点〉

◇小学校低学年と特別支援学級の生徒とのかかわりを通じて、自己理解や他者理解を深化させる。

◇学校で学ぶ知識と、社会や職業との関連を実感させる。

◇社会において役割を果たす人間として、自らの在り方生き方について主体的に探求させる。

◇集団の中で、自己の果たすべき役割を認識させ、その役割を果たすことによって、自己有用感を高める。

◎本校の教育方針「望ましい職業観・勤労観を醸成し、主体的に自己の生き方を考え、行動する態度を育成する」「家庭・地域・学校が協働して子どもを育てていく環境をつくる」を具現化した活動

〈取り組みの概要〉

岩沼西小学校低学年及び特別支援学級の大掃除を、名取高校家政科１学年が協働して行う。児童らには、手の届かない場所や重くて運べない物品があり、高校生が補助することによってその課題を改善し、美化活動の成果の向上を図る。年齢が離れた児童と生徒の協働作業によって、人とかかわる機会をつくる。

〈成　果〉

○児童を補助することは、場に応じた適切なコミュニケーションが必要であり、普段物静かな生徒も小学生の輪の中に入って積極的に関わっていた。

○家政科は２学年から、「保育基礎」が必修となるが、この活動は「保育」の授業との関連があり、自己の適性や児童への理解に加え、自身の進路選択についても考えを深めることができた。

〈昨年度との比較〉

○これまで継続してきたことで、両校の事前指導が年々充実し、お互いのコミュニケーションや積極性が高まり、協働性が向上している。高校生の自己有用感の高まりを感じたため、今後も継続していきたい。

○連携事業の継続により、昨年度以上に共に地域にある身近な学校という、連帯感や親近感の高まりを感じた。

〈メッセージ〉

○今年度は７月、１２月の年２回実施し、児童の純粋さに触れると共に、今後の進路選択や学習活動に向けての意欲の高まりを感じた。今年度は岩沼西小学校の教頭や志担当教員から振り返りの講話をいただき、児童理解について学ぶことができた。活動後、各クラスの児童からお礼のメッセージをいただき、家政科一年生徒は達成感と自己有用感の高まりを強く感じた。来年度も継続してより充実させ、志教育の目指す資質や能力を育成したい。